

平成25年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

番号	経営協議会	内容区分	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第41回 H25.6.21開催	組織運営	大学として、何をコアにするのか分かりにくいので、中長期的な視点に立って、柱となるものを明確にするべきである。 研究科の垣根を無くして、教育研究に取り組むことが重要である。	本学の改革の方向性について、学内で検討した結果、「グローバルに活躍しイノベーションを創出する人材を育成するため、知識科学に基づくデザイン思考教育をはじめとした知識科学分野の教育成果の全学的な展開等により、社会の変化に対応できる柔軟かつ機動的な全学融合的教育研究体制を構築する。」という新たな方針を打ち出すこととし、これに基づき、中期計画の変更を行った。
2	第43回 H25.12.19開催	組織運営	世界や社会のニーズに応える教育研究の実現に向けて、全学を融合したフレキシブルな教育研究体制を構築するべきである。	

○アカデミックアドバイザーからの意見と対応状況

番号	アカデミックアドバイザー交流会	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	知識科学研究科 H25.1.30開催	知識科学は扱う分野が広がり、わかりにくくなっているが、知的興奮を呼び起こすものであり、知識科学研究科の成果の蓄積が進めば、自然と世の中に理解される。研究科の方向はこのままで進めていい。	知識科学に興味を持ち、必要とするであろうと思われる学生や社会人に対し、正しく情報発信するとともに、「知識科学とは何か？」や「知識科学」の重要性をより多くの人たちに知ってもらうため、「知識社会で活躍しよう」と題した書籍を制作した。
2	情報科学研究科 H25.2.1開催	FDをより充実させるため、教員間でアドバイスし合ってはどうか。	各教員が作成した研究室教育指針を研究科ホームページで公開し、教員間で学生教育に関する情報共有を行った。
3		自主性を持ち、世界でリーダーシップが発揮できる人材となるよう指導いただきたい。	ICTグローバルリーダー育成コースで英語によるコミュニケーション力、専門分野に対する深い洞察力を持つ人材を育成することを目的とし、博士論文研究基礎力審査の導入を決定し平成26年度から実施している。

4	マテリアルサイエンス 研究科 H25.1.21開催	研究室間の連携がうまくいっている。今後も研究室間の壁をなくすよう工夫してほしい。	重点分野の選定やそれに対応した新規設備の導入・資源の傾斜配分を進めつつ、共通設備の共同管理運営、研究室間の連携が活性化するような資質を持った教員を採用するなど、継続的施策を進めた。
5		産学連携に関するさまざまな取り組みが行われており、積極的であると認められる。また、今後は北陸地区の企業を活性化する拠点となってほしい。	ナノテクプラットフォーム事業において地元企業への支援を行った。 北陸地域の企業ニーズに合った技術シーズの紹介や産産連携のビジネスチャンスの提供を目的とした交流フォーラムを行った。

○インダストリアルアドバイザーからの意見と対応状況

番号	インダストリアル アドバイザーと学 長との懇談会	内容 区分	アドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	H25.12.13開催	教育	国際学会での発表を学生時代に1回は経験するなど何かを達成して自信を付けた学生を企業に送ってほしい。 現地の中核人材になり得る外国人留学生に日本語教育をしっかりとお願いしたい。	学生に対しては、国際学会での発表を積極的に推進するなど、達成感とテクニカルコミュニケーションを両立できる指導を今後とも行っていきたい。 学内に日本語教員を配置するなど、日本語教育にも引き続き注力していく方針である。
2		教育	ハードウェアの回路設計等のもの作りができる技術者が非常に不足しており、ぜひ養成をお願いしたい。	金沢工大と共同で、組込みソフト技術者に電気・電子回路設計も教える人材養成コースを開講している。
3		産学連携	企業側としては实际的で実用化に近い共同研究案件でないと継続が難しい。	出口(最終製品・サービス)を意識した研究活動を推進するべく、担当教員の意識を高める努力を継続したい。